

文字に興味持つ機会に

アニメ「ばらかもん」N-I-B放映

劇中の書 原雲涯さん制作

12日から本県でも放映が始まった、五島を舞台にしたテレビアニメ「ばらかもん」。その劇中に登場する書は、長崎市の前衛書家、原雲涯さん(67)が手掛けている。「書道を題材にした珍しいアニメ。少しでも文字や書写に興味を持ってもらう機会になれば」と期待している。

原さんは真書道展の審査会員を務め、2010～11年に長崎新聞で連載された故市川森一さんの小説「幻日 原城攻防絵図」の題字を揮毫(きごう)したこと

でも知られる。アニメ映画「ストレンヂア 無皇刃譚(むこうはだん)」(07年)などのタイトル題字を担当したこともある。

「ばらかもん」では主人公の青年書道家の作品などを制作。都会育ちの主人公が島民との交流の中で成長していく物語に合わせて、作品の趣も少しずつ変化させている。

「書的表現を高めすぎると読みにくくなる。一般人にも読めて、芸術性のある字を書かなければならない」と原さん。一つの作品につき

3、4種類を書くという。

東京のアニメ制作会社を訪れた際には作画にも協力。モデルとなって、書くときの姿勢や筆の持ち方、使い方などを披露した。

原さんによると、近年は書道教室に通う人の減少傾向が続いている。「背景としては少子化が大きい、体育系の習い事が人気なのも要因。情報端末の普及などもあって教育の基本である『読み・書き・そろばん』がおろそかにされている気がする。アニメが文字の大切さを見直すきっかけになれば」と話している。

アニメ「ばらかもん」はN-I-Bで毎週土曜日午前10時から放映。(小出久)



「一つの作品につきオーソックスなものから芸術性の高いものまで3、4種類を書いています」と話す原雲涯さん
＝長崎市稲田町の自宅